



みなみせや

人との「かかわり」から学ぶ

副校長 廣田 晃士

新学期が始まり、約2か月が過ぎました。学級にも慣れて、それぞれのクラスの学習も本格化してきました。学校は勉強することがもちろん大切ですが、それだけではなく、集団生活を通して「人とかかわること」つまり社会性を学ぶ場でもあります。



6年生は4月に入学してきた1年生のために、朝の支度を手伝ったり、掃除の仕方を教えに行ったりしています。1年生は「ありがとう!」と感謝の気持ちを伝え、6年生はうれしそうにしています。1年生にとっては、やさしいお兄さん、お姉さんがいることで、学校生活への安心感を生むことにつながっています。この活動を通して、1年生は6年生にあこがれをもち、6年生は人の役に立っていることを実感して、自分が必要とされていることを感じるすることができます。



4年生はまちたんけんに出かけて、和泉川で春の動植物を探しました。「あれなんだろう?」「これ〇〇っていう花だよ。」など、観察をしながら互いに知っていることを共有したり、教え合ったりしていました。友達同士で協働的に学び合う様子を見ることができました。

3年生は学級会でクラスのことを話し合っていました。休み時間にみんなで遊ぶ遊びについて、何がよいか相談していました。「みんなが仲良くなるために!」どんな遊びがよいか、友達と相談しながら、「うちのクラスなら…」「もっとこうなりたいから…」頭を突き合わせながら、みんなで一つのことを決めようと頑張っていました。



5年生は学習の中で、グループとして一つの考えにまとめる活動をしていました。一人ひとりが別々の情報を持ち、それを合わせて答えを導き出すという授業でした。「その情報ナイス!」「よしその考えでいこう!」など、グループで協力して答えを出そうとする姿がたくさん見られました。

タブレットや SNS が発展して、人と直接かかわる機会が少なくなっている現代社会。しかし、やはり人と直接かかわりながら遊んだり、学んだりすることでしか学べないことが、学校にはたくさんあると考えています。この「かかわり」が子どもたちの社会性を育てていくと考えています。そのことから、学校では授業や生活を通して友達と意図的にかかわれるような場を設定しています。

子どもによっては人とかかわることが得意な子もいれば、苦手な子もいます。友達とうまくいかないこともあるでしょう。その時に関係を修復したり、解決したりすることも、社会に出たときに大切な力になると考えています。今後も、よりよい人間関係を築いていけるよう子どもたちを見守っていきます。